



7月の園だより

R.2 大川保育園

梅雨の晴れ間、抜けるような青い空に白い雲が広がって、もうすぐ夏本番を迎えます。

新型コロナウイルスの影響で例年とは少し違う様子となっていた保育園も、少しずつ登園する子どもたちが増えていき、元気な声が以前に増して活気があふれてきたように感じます。

市内の新型コロナウイルス感染は収まりつつありますが、他の地域では感染者もまだ増え続けているので安心とは言えません。引き続き検温のお願いと、送迎の方のマスク着用と園舎外までの送迎のご協力をお願いします。

保育中においても密集する空間を作らないように工夫して過ごしていますが、友だちや職員との遊びや関わりについては密接を避けられないのが現状です。

7月の行事においてはクラスごとに七夕会・誕生会を行うなど例年と内容を変えて計画しています。夕涼み会は保護者の参加はありませんが子どもたちが十分楽しめるように工夫し、お祭りの雰囲気を楽しめるものになりたいと考えています。

またこれからは気温・湿度共にぐんぐん上がり、暑さのピークを迎える時期です。園では子どもたちの汗対策・熱中症対策をはじめ、健康管理には十分気を付けて、夏を楽しんで過ごせるものにしていきます。

命を繋ぐためにできること

外食産業が発展し、コンビニ弁当・冷凍食品・テイクアウト食品などなど便利に豊かになっている世の中ですが、昔にくらべて野菜の栄養価は種類によって違いはするものの、ぐんと落ちてきていることをご存じでしょうか。

人工栽培が増えたことや、土壌の問題、流通過程の問題で早く収穫することなどが要因となっているようですが、それに加え朝食をとる人、毎日三食しっかり食事をとる人の減少…。

中には販売されている食事で“三食”という人もいるようですが、そこにも問題があるようです。

販売されている食事は、便利ですし美味しそうに見えますが、どのように作られているかも大切になってくるのです。いくら野菜がたくさん使用されていたとしても食品が完成するまでにたくさんの工程の中で煮汁交換などが行われれば、栄養価がぐんと下がったものになってしまうのです。

そんな“命のぬけがら”を食べても、いくら三食食べようが本来人が一日に必要なとされている栄養価には、程遠いそうです。

食が豊かに便利になった現在の日本。「また食べたい」「もっと食べたい」と思う食べ物がありふれていますが、今一度立ち止まって考えていくことが必要のように感じます。

人間にとって口は“命の入り口”といわれ、噛むことは“生きること”。だからこそ何を食べるかだけでなく、どう食べるかも大切に考えていきたいものです。

保育園の食事は産地や素材そのものの味を大事にし、意欲につながるよう大きさや形にも工夫しています。味はシンプルではありますが、その中に素材の栄養がたっぷり詰まっているので、それこそが本当の美味しさだと思っています。

命をつなぎ子どもたちのこれからを守っていくためにも、私たち大人が「食」の何を大切にしていけるかを、もう1度一緒に見つめ直していけたらな、と思います。



五色は何色？

七夕の歌にある「こしきの たんざく」の5つの色をご存じですか？
青は木、黄は金、赤は火、白は水、黒は土を表す、この5色です。
これは中国の「五行説」という思想で、自然界・人間界のすべての現象をつかさどるものとか……。
奥が深いですね！

7月の予定

7日(火) 七夕会
16日(木)17日(金) 夕涼み会
20日(月) 防災訓練
31日(金) 誕生会